

第194回: 吊り目と細目に関する垂れ目の考察

2013年はアジアの平和と安定に必要な不可欠な日中韓三国の善隣友好関係が粉々に壊れた年であった。中国の尖閣諸島への執拗な干渉には困ったものだが、食うや食わず赤貧洗うが如き時代の中国は鄧小平の遺訓「韜光養晦、有所作為(野心や才能を隠して周囲を油断させ、当面力を蓄える)」を忠実に守り、深く静かに潜航していたが、経済がテイクオフした途端に権力意志を露わにして、帝国主義時代に収奪された(と主張している)版図を奪還する動きに出たのである。しかし歴史上こんな事例はいくらでもあり、歴史を紐解けば対応は難しくない。外交の座標軸を保ちつつ、毅然と主張すべきは主張し、相手の反論には直ちに反駁すれば良い。あとは日米安保条約がいつでも発動できるよう準備万端整えておだけた。

問題は韓国だ。独立運動の烈士を顕彰したければ、全国津々浦々に安重根記念館をつくれればよいのに、兇行の地とは云え中国のハルビンに作ろうなんて何を考えているのだろう、それを許しかねない国も如何かと思うが、これ、オーストリアの皇太子と、セルビアのテロリスト、そして暗殺の地ボスニアの関係に似ているようだが、かの犯行現場に記念碑はない。韓国では朴槿恵大統領が就任して以降、反日にからむ理解不能の椿事が多発しており、大半の日本人は怒るよりもむしろ呆気にとられている。

戦時中の韓国人労働者の徴用に対して日本企業に賠償を命ずるトンデモ判決が一例だ。日本政府が韓国政府に対し、日本企業の敗訴が確定した場合は「重大な国際法違反」として国際司法裁判所へ提訴すると警告したのは当然だ。もし敗訴が確定すれば日系企業は韓国から総退去することになり、そうなれば韓国経済がどうなるか知らんよ。もっとも、対馬の観音寺から韓国の盗っ人が仏像を盗み出し、これに対し韓国の裁判所は、大昔に韓国から盗まれた国宝だから、日本へ返還する義務はないとの判断を下しており、その意味で韓国法曹界の軸はぶれておらず、牽強付会もここまで徹底すれば、日本の常識人は感嘆これを久くするしかないのである。鄧小平は「憲法よりも常識が優先する場合もある」と発言したことがあるが、韓国は「法律より感情が優先する」国のようなのだ。国際法や民法の常識が通じない国で、ビジネスを継続しようとする外国企業はいない。国と国の外交関係だって保てるわけがなく、その意味では韓国よりも中国の方がよほどましである。そんなわけで三国間の関係はこじれにこじれているが、欧米人から見れば朝鮮人も、中国人も日本人も見わけがつかないようで、似たような黄色人種が掴み合いの喧嘩をしていると思っているのだろう。因みに欧米の風刺漫画に登場する日本人は垂れ目、目が吊り上がっているのが朝鮮人、まっすぐ細いのが中国人だと云う。何れにしても三か国が意地を張り合っても益はなく、また礼節を重視する日本は感情的に中韓を非難すべきではないが、妥協する必要は更にはない。戦後の日本がアジアの安定と平和に貢献してきたか否かを冷静に判断すれば、歴史的認識云々と云われる筋合いがないのは明らかだ。

むかし韓国に出張したときソウルで伝統的な韓国料理をご馳走になったことがある。嘗て朴槿恵の父親で漢江の奇跡を示現した朴正熙大統領が側近の中央情報部長に暗殺されたとき、その犯行現場を再現したテレビ番組を見た記憶がある。現場がKCIAの宴会場で食事の犯行であったことから、朴大統領たちは

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

カルビやタン塩でも焼きながら、キムチをツマミに、唐辛子をぶち込んだマッコリを飲んでいただけかと思っていたら、「韓定食」という高級会席料理だと聞いて吃驚したことがある。筆者が経験したのもそんな会席料理で、綺麗な食器に少しずつ盛り付けられた数多くの珍しい料理を味わった。初めて韓国高級料理を舐めた印象では、日本料理風、中国料理風、そして朝鮮古来の料理の三種で構成されているような感じであった。しかし残念ながら中国風の炒め物は上海や香港の本場の方が美味しいし、日本の天麩羅のような揚げ物は、筆者でももう少し上手に揚げられると思うようなしろものだった。結論として日本風でも中華風でもない料理だけが珍しくて、興味を持って賞味した記憶がある。

かの谷崎潤一郎は、戦前も戦時中も軍国主義の世の中に迎合せず、国民が辛い窮乏生活を送っている時期でも文豪然と傲岸に構え、夜は鯛の刺身で晩酌を傾け、晝は「源氏物語」の現代語訳や大作「細雪」の執筆に取り組んだと云う。食通として知られた谷崎は荷風散人や高峰秀子、古川ロッパたちを招待しては、食を楽しみつつ交流を深めたと云うが、和食専門ではなく中華料理も大好きだったようだ。彼の「蘇州紀行」、「秦淮の夜」、「上海交遊記」等の短編の内容は交友、飲食、景色、嫖客等、多岐に亘っているが、最も筆が冴えわたっている個所は郭沫若を始めとする中国の若手文化人との交流でもなければ、必死に探り当てた妓館の閨房の委細でもなく、食卓の情景であるのが面白い。

「わたしはずつと小さい時から支那料理が好きであった。…(略)…日本料理の味が解るやうになつたのは後のことで、西洋料理に比べても支那料理の方が遙かに美味いと思つて居た。夫で此の間支那に行つた時も本場の支那料理を食ふと云ふ事が主な楽しみとなつて居た」と「支那の料理」に記した谷崎潤一郎。彼は和食のエッセイに「上方の食ひもの」と云う題名をつける一方、中華料理のエッセイを「支那の料理」としており、なかなか興味深いところである。

死ぬまで「食」への飽くなき探求心を持ち続けた谷崎だが朝鮮料理は苦手だった。「朝鮮雑感」のなかで、朝鮮の美しい光景に接して「フェアリー・ランドへ連れて来られたのではないかと云ふやうな心地がした」と感激しているくせに、料理については、「さう考へると、まづくて幼稚な朝鮮料理までが、その頃の日本料理に似通つて居はしないかと云ふやうにさへ感ぜられた。…(略)…前にちよいと朝鮮料理のことを書いたが、いかに悪物喰ひの私でも、あればかりは全く喰へなかつた」と云い切っている。鈍感なひとは中華料理と朝鮮料理はよく似ていると思うはずだが、大谷崎の味覚は極めて鋭敏であった。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

平成25年11月27日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号
日本証券業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

①株式の手数料等およびリスクについて

- 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大1.2075%（税込み）（約定代金が260,869円以下の場合、3,150円（税込み））の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。

国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

- 外国株式等の売買取引には、売買金額（現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額）に対して最大0.8400%（税込み）の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

②債券の手数料等およびリスクについて

- 非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

③投資信託の手数料等およびリスクについて

- 投資信託のお取引にあたっては、申込（一部の投資信託は換金）手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。

投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

④株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大0.0840%（税込み）の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大4.20%（税込み）（約定代金が2,625円に満たない場合は、2,625円（税込み））の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。